

環境保健センター試験研究計画書

番号	R7-1	課題名	大気環境モニタリング体制の強化に関する研究【新規】					
期間	令和 7 ～ 9 年度	担当部課室	環境科学部 大気科					
課題設定の背景	<p>1 政策上の位置付け 第3次晴れの国おかやま生き生きプランの重点施策である「水、大気、土壌などの保全対策の推進」並びに岡山県環境基本計画に掲げる「大気環境の保全」及び「有害化学物質による環境汚染の防止」に資する。</p> <p>2 県民や社会のニーズの状況 岡山県のPM2.5に係る環境基準達成率は改善傾向にあるものの、全地点では環境基準を継続的に達成できていない。改善に向けた施策の検討には、PM2.5の高濃度事象の要因の解析が必要である。 そのためには、PM2.5の成分分析が重要であり、これまでの研究から、ブルースカイ事業で対策に取り組んでいる稲わらの野焼きの指標にレボグルコサンが有効であることが分かった。 しかし、現行の成分分析の試料採取方法は、大型の試料採取装置が必要で、保有台数に限りがある上、試料採取日を予め設定して装置にろ紙をセットしておかなければならないといった課題がある。そのため、突発的に生じるPM2.5の高濃度事象の際により簡便な試料採取が可能なモニタリング手法が必要である。</p> <p>3 県が直接取り組む理由 大気環境の常時監視は県の責務であり、環境基準の達成は県の目標であるため。</p> <p>4 事業の緊要性 PM2.5について環境基準を継続的に達成できていないため、より詳細に高濃度事象の要因を解析し、効果的な対策を検討することにより、早急に改善を図る必要がある。</p>							
	試験研究の概要	<p>1 目標 突発的に生じるPM2.5の高濃度事象の際にも成分分析を可能にし、高濃度事象の要因の解析に活用する。</p> <p>2 実施内容 大気環境の常時監視に使用しているPM2.5自動測定機でテープろ紙に捕集したPM2.5の成分分析手法を検討する。</p> <p>3 技術の新規性・独創性 岡山県内でテープろ紙を活用したPM2.5の成分分析は行われておらず、本県の課題であるPM2.5の高濃度事象の解析に活用する。</p> <p>4 実現可能性・難易度 実現可能性：中 難易度：中</p> <p>5 実施体制 0.6名</p>						
		成果の活用・発展性	<p>1 活用可能性 PM2.5自動測定機では、テープろ紙に常時試料採取が行われており、いつでも遡って分析することが可能になるため、突発的なPM2.5の高濃度事象にも対応できる。 既存の自動測定機を応用するため、効率的にモニタリング体制を強化できる。</p> <p>2 普及方策 学会発表、年報及びセンターだより掲載等</p> <p>3 成果の発展可能性 災害・事故等で工場から有害な物質が大気中に漏えいした場合にも、活用できる可能性がある。</p>					
			実施計画	実施内容	年度	R7	R8	R9
採取方法の比較検討								
高濃度事象の要因解析								
まとめ								
計画事業費		62		62	62	186		
一般財源		62		62	62	186		
外部資金等		0		0	0	0		
人件費(常勤職員)		4,800	4,800	4,800	14,400			
総事業コスト		4,862	4,862	4,862	14,586			